

令和2年度 事業計画

社会福祉法人 藤花会

社会福祉法人 藤花会

特別養護老人ホーム 小規模多機能ホーム 居宅介護支援事業所

『せとうち』『せとうちの郷』

【施設方針】

- 職員採用の強化
- 経営基盤の安定・強化
- 法人の理念・方針の実践
- 職員の意識改革と資質の向上
- 入居者・利用者に対するサービスのより一層の向上
- ご家族との関わり

《職員採用の強化》

- (1) 新卒・中途（経験者・未経験者）採用方法の見直し
- (2) 採用チームの活動の強化
- (3) 採用媒体の検討

《経営基盤の安定・強化》

令和3年度の介護報酬の改定に向けて、

- (1) 地域包括ケアシステムの推進
- (2) 自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現
- (3) 多様な人材の確保と生産性の向上
- (4) 介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保が必要である。

また、平成29年度の社会福祉法人制度の改革に伴い、

- (1) 経営組織のガバナンスの強化
- (2) 事業運営の透明性の向上
- (3) 財務規律の強化
- (4) 地域における公益的取組を実施する責務を引き続き行い、当法人においても昨年に引き続き事業経営の安定・強化と良質なサービスを提供していくための努力を引き続き進める。具体的には法人各事業所の数量的な目標を設定し、収入増の具体的な方策と支出削減のための経費削減に取り組み経営改善を行う。

《法人理念・方針の実践》

「地域と共生」を合言葉に地域にとってなくてはならない施設を目指す。地域との交流(町内会・保育園・小学校)、ボランティアの導入、実習生やインターンシップ(地元中学校・各専門学校・大学短大)の受け入れを積極的に行い、地域住民や各種団体(社会福祉協議会等)との更なる連携を図る。「私たちが入居(利用)したい施設を創る」ために、常に施設の在り方を考える。

《職員の意識改革と資質の向上》

サービスの質を向上するための教育や研修に積極的に取り組み、外部講師、内部講師を活用して職員のレベルアップに努める。昨年同様、「新人職員向け研修」「中堅職員向け研修」「指導的職員向け研修」を行う。また、当施設において「喀痰・吸引等の研修事業」を開催し、医療依存度の高い入居者・利用者への対応ができるよう努める。職員一人ひとりの新たな気づきや発想の転換を大切にし、創意工夫できる力を引き出すことを目指す。

○ユニットリーダー研修への参加

○ユニットリーダー研修実地研修受け入れ施設に応募

○介護グランプリにエントリー(令和2年12月 介護福祉士会主催)

《入居者・利用者に対するサービスのより一層の向上》

- (1) ケアプランに基づいた生活支援：個別ニーズに対応したケアプランの充実を図り、ケアプランは職員一人ひとりが立案可能となり、サービス面でもその遂行確認が出来るように努力する。
- (2) 安心・安全・快適な生活環境の整備：居室担当者は、各受け持ち居室の環境整備に努める。各委員会の機能を生かし、充実したサービスが提供できるように各委員会の連携を図る。
- (3) 身体拘束廃止の取り組み：原則身体拘束のない介護の提供を行う。
- (4) ボランティアの受け入れと地域交流：施設の社会化の一環として「地域への開放」を重要な役割の一つとして捉え、ボランティアを積極的に受け入れ、活動の場を提供するとともに、学生の実習の受け入れも積極的に行い、福祉教育にも力を入れる。
- (5) サービスマナーの向上：「サービスマナーとは、相手を大切に思う気持ち状況(場面)に応じて適切に表現する」福祉実践そのものを指している。サービスマナーの向上は「介護の質」を高め、何よりも入居者・利用者にとって心地よい生活空間と顧客満足をもたらす原動力そのものである。一個人として、そして施設全体として不断に自己点検と相互点検を通して、サービスマナーの向上に努める。

《家族との関わり》

家族会との連携を図り、「せとうち」「せとうちの郷」で現在開催されている下記の行事に参加を促し、ご入居者だけではなく、地域住民との関わりも密にする。「せとうち」「せとうちの郷」で行われている職員研修の参加を案内し、どのような研修を行っているのかご家族にも知っていただき、お互いに「顔の見える関係作り」を目指し、今後のケアの向上に向けて相乗効果を図る。

- ◇芋掘り ◇喫茶 ◇夏祭り ◇勉強会（認知症・介護予防など）
- ◇認知症カフェ ◇学習教室（低所得者向けも含む） ◇こども食堂

各部署の目標

『せとうち』

【相談員】

目標

- ・ショートステイ稼働率100%以上

行動計画

○居宅、病院との連携

紹介の多い瀬戸内市、岡山市東区、備前市の居宅・病院への月1回の営業

○ショートステイ利用者の増加

毎月5名の新規者獲得を目指す

目標

- ・特養稼働率97%以上

行動計画

○退居者が出た翌日に新入居者を受入

○病院ソーシャルワーカーと連携し、入院中の利用者の状況を定期的に把握、ショートステイでの空床利用が確実にできるようなしていく

目標

- ・藤田病院、せとうち小規模、せとうちの郷・小規模、老健はるかとの連携、情報交換

行動計画

○お互いの利用者についての情報交換を行い、利用者のニーズに合ったサービスを提供できるようにしていく

【ケアマネジャー】

目標

- ・多職種との関わりを大切にし、連携強化を目指す

行動計画

- カンファレンス時だけではなく、多職種と関わる時間を増やし、情報交換、共有を行う
- 得た情報をもとにどのように対応できるかをしっかり協議し、質の高いケア提供へとつなげる。

目標

- ・入居者様、ご家族様と関わる時間を増やし、意向や思いに沿ったケアプラン作成

行動計画

- 定期的にユニットラウンドし、入居者様と関わりを持つ機会を増やしていく。
- ご家族様とも面会時や行事時の機会を通じ、積極的に関わりを持ち、思い、要望を把握していく。

目標

- ・看取り支援への取り組み

行動計画

- 多職種がスムーズに連携ができるように、入居者様の状態に応じ、カンファレンス開催し、調整を図る。
- カンファレンス時に入居者様とご家族様の思い、意向をケアプラン作成に反映していく。

【管理栄養士】

目標

- ・3施設協力し、利用者様に喜んでいただける食事の提供

行動計画

- 安全を第一にしながらも楽しみを感じていただけ、また季節感、地産地消を心がけた食事
- 3施設の管理栄養士、委託先の栄養士と情報の共有

目標

- ・咀嚼や嚥下機能に配慮した食事の提供

行動計画

- ミールラウンドを行うことで、利用者様の咀嚼や嚥下状態等、状態把握に努め、その方に合った食事の提供を心がける
- 看取りの入居者様の状態や情報の把握、支援の提案

【機能訓練指導員】

《入居》

目標

- ・拘縮・褥瘡予防のためのポジショニング・シーティングの設定と積極的な伝達
- ポジショニング・シーティングの必要な方に関して、職種間（医務・介護・機能訓練指導員）で情報を共有する。
- 生活リハビリが継続して行えるよう、カンファレンスで具体的な内容を提案・検討をしていく。

目標

- ・各フロアや多職種、ご家族様との連携体制の確立
- 日々の機能訓練や計画書作成にあたり、フロア職員や医務との情報共有を密に行えるように積極的にコミュニケーションを図る。

《ショートステイ》

目標

- ・ショートステイ年間稼働率 100%達成

行動計画

- ご利用者様が社会参加や社会貢献を行えるよう、心身機能・意欲を維持向上させる
介護士による生活リハビリの指導と個別機能訓練の充実
(60%以上のご利用者様：3か月間の身体機能・認知機能・意欲の維持向上)
- 生活相談員に同行し、居宅介護支援事業所ショート棟の取り組みを積極的に紹介する。
紹介ツールの作成(個別機能訓練の効果を示す DVD、ショート棟新聞等)と事業所訪問（事業所訪問：3件/月以上）
- 介護予防ショートステイ、介護予防講座、健康維持・増進無料相談等、施設内外での地域貢献活動を行う。

【事務】

目標

- ・事務所内の雰囲気づくり

行動計画

- あいさつ、大きな明るい声で。できる限り顔を見てコミュニケーションを図り
何でも話しやすい環境作りをする。
職員の笑顔が増えることで、入居者・来所者への良い影響があると考えている。

目標

- ・5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の取り組み、在庫管理の徹底による
労働内容の効率化

行動計画

- 定位置管理、在庫管理の把握により在庫切れをなくすこと。無駄な買い置きをなくすことで経費削減・業務の効率化を図る。

【本館1階】

目標

- ・その日、その時を大切に過ごす

行動計画

- 利用者様の思い希望をその日、その時に実現出来るよう多職種、家族と連携をとり日々情報収集、情報共有を密にしていく
- 職員の声掛け日頃からしっかり、コミュニケーションをとり報連相の徹底
- 入居者様の体や心の小さな変化に気づき、職員同士 情報共有し早期発見に努めケアの統一を図る
- 家族が参加出来る行事など企画して交流できる時間を増やす

【本館2階】

目標

- ・また利用したいと思っ頂けるショートステイを目指す

行動計画

- 接遇や支援技術、職員間の情報共有等、基本を徹底し、安全、安心に過ごして頂ける環境を作っていく
- 忘れ物ノートを活用し原因の検討を行い、対策を周知し忘れ物ゼロを目指す

目標

- ・稼働率100%の達成、継続

行動計画

- ご利用者個々のニーズに合わせたレクリエーション、リハビリを提供する
レクリエーションを通じ地域交流、社会参加をすることで、目標や役割を持って頂き、活気ある生活を送って頂く
- 日々の取り組みをメディアや地域へ発信し、アピールしていく

【新館2階】

目標

- ・入居者とその家族が心身共に安心でき、満足して生活を送ってもらえるフロアを作る。

行動計画

- 入居者の思いを聞き出せるように関わり、その思いを食事レク、外出等を通して叶えるようにする。(ユニット会議で話し合い、企画する)

- 入居者を観る、聴く、触れることの意味を意識しながら日々のタッチケアや体操、レクリエーションなどでコミュニケーションを図る。
- 入居者全員の誕生日を把握し、記念日となるその日を大切にフロア全員が第二の家族としてお祝いする。
- 毎月家族に写真付きの手紙を送り日々の生活の様子を伝えていく。また家族が参加できる企画を2～3ヶ月に一度のペースで考え、風通しのよい雰囲気、信頼関係を作っていく。

目標

- ・情報共有をしっかりと行い、統一介護の実践

行動計画

- 職員一人ひとりが体と心の小さな変化に気づき、そのときに合ったケアができるように報告・連絡・相談し、統一したケアに努める。

【本館3階】

目標

- ・居心地の良いフロア

行動計画

- ご入居者のニーズに応える
日々決まった業務をこなすだけでなく、その方の普段と違った様子に気づき、また何がしたいのか、どうしたいのか、ご入居者の立場に立って考え行動する。
- ご家族との関わりを大切にする
面会時の会話だけでなく、面会に来ることが難しいご家族もおられる為、毎月写真を送りせとうちでの生活を知っていただく。全体行事だけでなく、フロア行事も企画し、1回でも多く足を運んでいただける機会を設ける。
- 職員間の連携を図る
「知らなかった」をなくす為、ご入居者の小さな変化や些細な事、ご家族とのやりとりなど、細かな事でも介護記録や申し送りノートに記載し、情報を共有する。

【新館3階】

目標

- ・入居者個人と関わる時間を大切に、職員間の情報共有に努めよう

行動計画

- 居室担当者が率先して担当入居者の情報を集め、外出やレクなど個別に関わる時間を作る
- スタッフ同士が相談しやすいフロアにするために、フロア会議の際に、必ずお互いのケアの中での良いところを言い合う
- 日々の些細な変化にも、しっかり注目して、介護記録や介護日誌の内容を厚くすると共に申し送りの内容を充実させる
- 入居者家族とのコミュニケーションを図り、ご家族の意向にも寄り添うケアを行う

○ご家族にも外出計画に加わってもらい、自宅に帰る機会や一緒に外出できる機会をつくる

【看護】

目標

- ・入居者様の健康管理と異常の早期発見、対応
多職種との連携強化による入居者様への個別支援強化

行動計画

- ご家族様への積極的情報共有のためのコミュニケーションを図る
- 疾患の正しい知識と対応方法を伝える
- 援助方針を職員間で共有し、質の高いエンドオブライフケアを実践する
- 褥瘡を作らない
- 看護間のコミュニケーションを密にし、より良い看護を行っていく努力をする
- 研修への積極的参加を勧める

【小規模多機能ホーム】

目標

- ・「笑顔で帰宅。まる」

行動計画

- 笑顔であいさつみなさんをお出迎えします
 - ・ご利用者様、ご家族様がお来所の際は笑顔であいさつします。
 - ・職員は出勤したら皆さんの丁寧におひとりおひとり笑顔であいさつします。
- 「ほう・れん・そう」の徹底で心地よいサービスを提供します。
 - ・職員間の「報・連・相」を密に行うことでミスのないサービス提供を行います。
 - ・ミスのないサービスを提供することでご利用者様、ご家族様に利用してよかったと思っただけの事業所を目指します。
- 目くばり、気くばり、思いやりで、事故のない事業所にします。
 - ・ご利用者様の動きを気に留め些細な異常も見逃しません。
 - ・小さな異常から事故へのきっかけをみ逃さず、阻止できる能力と技術を身につけます。
 - ・危険と感じたことを職員一同共有して、協力して対策に取り組みます。
 - ・ご利用者様、ご家族様の気持ちに沿い、尊厳を守っているか職員一同で取り組虐待のない介護を行います。
- 元気よく楽しい活動をします。
 - ・ご利用者様の能力を生かし、楽しく機能の維持ができるように活動します。
 - ・地域の中で生活してこられたご利用者様を大切に活動のご提案します。

【居宅介護支援事業所】

目標

- ・地域との関わりを大切に、多職種と連携して信頼関係を築く。

行動計画

- 特養せとうち、せとうちの郷、老健はるか、多職種職員と連携しながら情報発信し、社会福祉法人として、地域における公益的な取り組みを実施する。
- 行政、地域包括支援センター、関係事業所などと連携して、地域資源も考えながら、公正中立に総合的かつ効果的なサービスの提供に努める。
- 入院時には早期な情報提供を心がけ、退院時も医療機関、関係事業所との連携、情報共有をしながら、切れ目のないケアサービスを提供する。
- 地域における福祉ニーズを把握し、利用者の意思、人格を尊重して、自分らしい生活が送れるよう計画を作成する。
- 法人内、法人外の研修を収集、企画、発信しながら、積極的に参加して、知識の習得に努める。
- 法人の適正な利益を確保できるように、職員体制も考えながら、居宅事業所としての予実管理を行う。

(介護 60 件、支援 20 件、目標額 80.0000 円/月)

【採用関係】

目標 「令和3年度春の新卒採用者5名の確保」

行動計画

- 採用スケジュールを作成して計画的に採用を行う。
- 近隣大学などの学校訪問を卒業生とともにを行いながら、いい人材を早期に採用する。
- 近隣の大学（福祉系を中心）などにも採用関係書類を送付して、IターンやUターンの学生も採用の対象とする。
- SNSなどを活用して仕事のやりがいや職員の働きやすさPRして企業イメージを高める。
- 学校などからの実習生も将来の採用対象者として、実習後もボランティアなどの情報提供を継続する。
- インターンシップ（各専門学校・大学短大）の受け入れを積極的に行い、幅広い人材の確保につなげる。
- 新たに高校生求人の募集を検討しながら、引き続き支援学校の生徒の実習受入も積極的に行う。

【地域交流・社会貢献関係】

目標 「地域に根ざした施設づくり」

行動計画

- 年間行事計画を作成して地域に情報発信を行い、地域に開かれた施設を目指す。
- 地域交流スペースなどサークル活動や各種団体に利用を促し、子供から高齢者までが気軽に

集える施設づくりを目指す。

- 日常生活又は社会生活上の支援を必要とする人や世帯に対して公益的な事業を検討して実施する。
- 近隣の各種団体の行事にも積極的に参加協力をしながら、施設と地域とのつながりを深める。

『せとうちの郷』

【相談員】

目標① 「ショートステイ稼働率 100%以上、特養入居稼働率 95%」

目標② 「ショート利用者のご家族と現場の職員の顔の見える関係作りの構築」

行動計画

- 居宅介護支援事業所への定期的な営業と藤田病院、はるか、せとうちと連携を取り柔軟な対応・受入れをしながら稼働率の維持に努める。
- 特養ご入居者の入院の際、小まめに SW と情報交換を行い円滑に退院ができるようにしていく。
- 特養待機者常時 3 名確保と退居後の入居を 3 日以内に行う。
- ユニット職員のサービス担当者会議参加の調整を行い、顔の見える関係作りをし、より安心して利用していただけるようにしていく。

【ケアマネジャー】

目標 「ご本人・ご家族に安心感を。身近な存在に。」

行動計画

- コミュニケーションを図りながら思いを引き出していく。
- ご家族様と会話の機会を作り近況報告やご家族の思いを収集していく。
- ご本人の変化を細かく把握し他職種と連携し安心して過ごせる環境を提供していく。

【管理栄養士】

目標 「安心・安全で、利用者様に喜んで頂ける食事作り。」

行動計画

- はるかの栄養士、委託業者の栄養士と協力しながら、新しいメニューの提案や、献立内容の検討を行っていく。
- 適時適温の食事提供や、イベント食への取り組みを強化していく。
- 他職種との連携を図りながら、適切な食事支援により、心身の健康増進に努める。

【機能訓練指導員】

目標 「今できる能力を維持し、日常生活で活かせるようにする。拘縮の予防。」

行動計画

- 個別介入にてできる能力を引き出せるよう支援し、他職種と情報共有し生活場面でもご本人が出来る事を増やしていく。
- 身体機能の把握に努め、介助方法やポジショニングの統一ができるようにする。
- 小集団にて楽しみながら体を動かす機会をつくる。

【事務】

目標 「より良い施設づくり」

行動計画

- ブログを通してご利用者様の様子を発信し、魅力ある施設と感じてもらえるよう、何気ない日常や職員の様子を発信する。
- 消耗品の購入先を検討し経費削減に努める。
- 保管書類を整理し、ペーパーレス化できるものはデータでの保存管理を行う。

【2階】

目標 「一人一人が質の高い“おもてなし”を届けるフロアへ」

行動計画

- 職員一人一人が初心に戻り、ご利用者と向き合い丁寧な関わりを通して、安心・安全で居心地の良い生活を送って頂けるよう支援する。
- 職員一人一人が自信を持って、統一した質の高いケアを提供できるよう、ケアの再確認と職員教育プログラムの確立を目指す。
- ご家族とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築き、気軽に立ち寄れる場所になるようなフロアを目指す。

【3階】

目標 「みんなで楽しもう！～安心・笑顔のある生活を～」

行動計画

- 毎月24時間シートを見直し、入居者・御家族が望む生活が送れるケアの提供
- 入居者・御家族の想いの実現。フロア会議で引き出した想いを出し合い計画を立てる（3ヶ月毎）
- スタッフ間での情報共有。口頭＋申し送りノートを活用することで入居者の安心・安全に繋げる。

【看護】

目標 「異常に気付き、即行動できる看護体制を作る」

行動計画

- いつもと違う変化を見つけ、共有できる。
- 病院受診へつなげる早い判断ができるようになる。
- 受診後の観察、ケアの継続ができる。

【小規模多機能ホーム】

目標 ①「利用者の希望を叶える環境作り」

行動計画

- 利用者1人1人に寄り添うケアをして、何がしたいのかを聞く。
- 楽しいと思える一瞬を、多く持てるような環境作りを行う。
- 職員間で情報共有と相談、協力を行う。

目標 ②「契約率93%以上を保つ」

行動計画

- 各居宅事業所のケアマネジャーや、各病院のソーシャルワーカーとの情報交換を行っていく。
- 相談や紹介を受けた方の状況を把握しておく。